

**議題(3)**  
**人口課題の特定と目標設定**

議題主旨: 人口課題を特定し目標設定を行う

# 人口課題について

## これまでの結果

- ・ 小牧市の生産年齢人口は減少しており、このまま推移すれば、地域経済の縮小及び市財政の悪化が懸念される
- ・ とりわけ20～30代における人口減少は顕著であり、転入数の減少の要因となっている
- ・ また、自然増減はプラスではあるものの死亡数の増加及び出生数の減少により低下傾向にある
- ・ 一方で、人口増加に成功している市町村においては転入超過と出生数の増加傾向が見られる
- ・ 転入可能性を考えると、近隣市町村に居住する小牧市勤務の人を呼び込むことが効果的である



## 解決すべき課題

- ・ 20～30代の人口を如何に増やすか
- ・ その為により下記における対応策を考える
  1. 20～30代転入数を如何に増やすか  
(特に小牧市就労が望ましい)
  2. 合計特殊出生率を如何に改善するか

# 人口推移が市経済に及ぼし得る影響

経済施策・雇用施策等を全く講じなかった場合、自治体の生産年齢人口減少は、市経済の縮小（GRPの持続的減少）を招き、結果として地域サービス低下・所得の減少につながると考えられる

## 原型となるモデル

$$GRP = AK^\theta L^{1-\theta}$$

(コブ・ダグラス型生産関数)

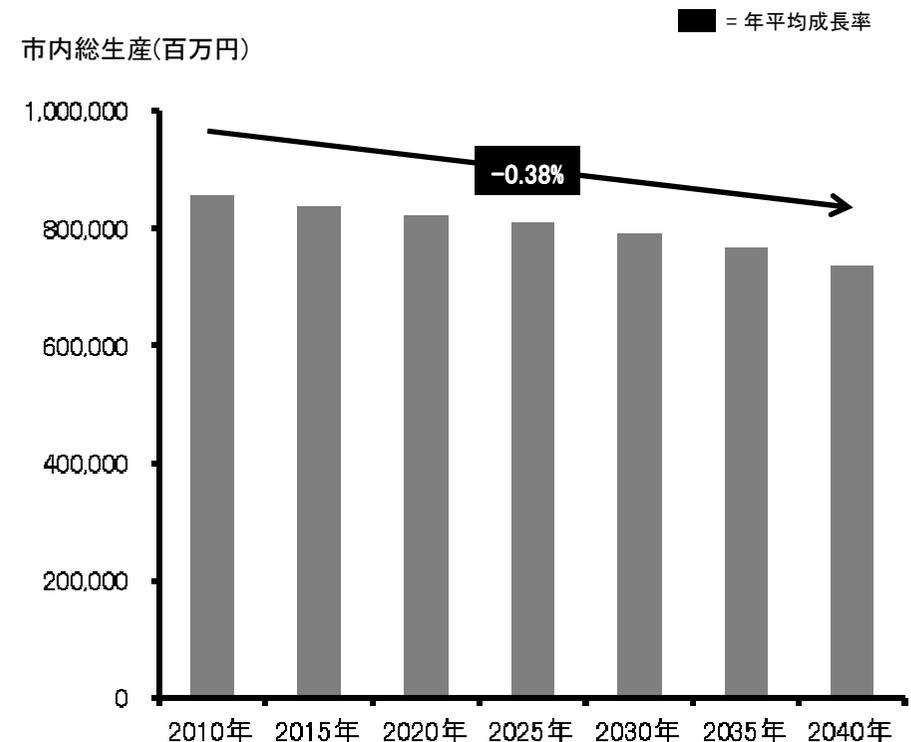
- ・A: 技術革新等による生産性
- ・K: 資本ストック
- ・L: 労働供給量
- ・ $\theta$ : 資本分配率

## 変数の前提

- ・ AとKは市町村レベルでは算出困難なため小牧市の直近市内総生産から定数として逆算
- ・ L: 年代ごとの平均労働時間、完全失業率、人口等から算出
- ・  $\theta$ : Hayashiらの論文で導出された値(0.362)を設定

※ あくまでも人口増減のみを変数としており、一切の施策を講じない場合のシミュレーションである

## 小牧市のGRP推計(2010年→2040年)



資料: Hayashi et al., The 1990s in Japan: A Lost Decade (2002)  
 Braun et al., The saving rate in Japan: Why it has fallen and why it will remain low (2007)  
 国立社会保障・人口問題研究所 男女・年齢(5歳)階級別データ-『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月推計)

## GRPのシミュレーション \_ 目標値の目安

GRP\*減少を食い止める為に、人口施策による解決のみを前提とすれば、20-30代人口の微増(年平均成長率 $\geq 1.0\%$ )が必要となる

### 分析の前提・目的

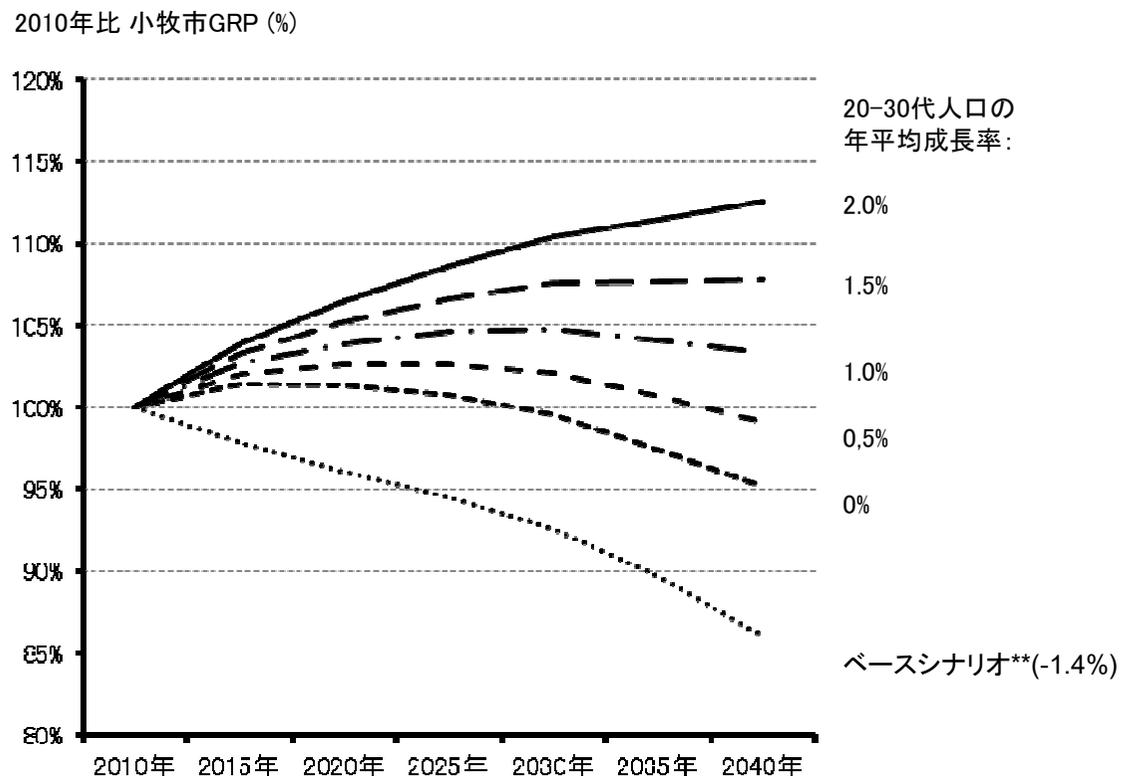
- 分析の目的
  - 将来20-30代人口を増加できたとすると、GRPの悪化を防ぐことができると考えられる
  - そのために必要な20-30代人口の成長の目標値を設定する

### 分析の前提

- 前述のGRPシミュレーションのモデルに準拠する
- 小牧市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計に基づき変化する

※ あくまでも人口増減のみを変数としており、一切の施策を講じない場合のシミュレーションである

### 20-30代人口増加パターン別の小牧市のGRP推計(2010年→2040年)



\* Gross Regional Product: 域内総生産(ここでは小牧市内総生産)

\*\* ベースシナリオ = 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口に基づいて変化する場合

資料: 国立社会保障・人口問題研究所 男女・年齢(5歳)階級別データ-『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月推計)